



子ども読書の日記念行事

講演会「『あらしのよるに』が生まれたわけ」

と き 5月11日(土) 午後2時～4時

ところ 生涯学習センター ホール (練馬区豊玉北6-8-1)

11日、こどもの読書週間(4月23日～5月12日)、子ども読書の日(5月12日)の期間にあわせて催しとして、絵本・童話作家のきむらゆういち氏による講演会「『あらしのよるに』が生まれたわけ」が開催され、区内外の小学生と保護者の方など約200名が参加した。

きむら氏は「あらしのよるに」シリーズや「どうするどうするあなのなか」「ごあいさつあそび」など、たくさん的人气絵本や童話を創り出している人気作家。

「あらしのよるに」はアニメ化され、映画やテレビ放映も行われて、新たなファン層も獲得しており、今回改めて多くの方に原作絵本の魅力を感じていただきたいと講演を依頼した。

当日は、きむら氏の代表作である絵本「あらしのよるに」の制作秘話などのお話や、絵本2冊の読み聞かせを行ったほか、きむら氏の著作を持参した方を対象としたサイン会も実施した。



講演するきむら氏

【当日の様子】

きむら氏の代表作である「あらしのよるに」は、本当なら弱肉強食の関係にあるオオカミとヤギが、あらしのよるに出会って親友になるという、不思議な友情を描いた物語。きむら氏は絵本の内容を紹介しながら、「本を読むと読んだ本の数だけ主人公たちの気持ちを感じることができる、喜び、寂しさ、不思議に思う気持ち…、小さな子どもたちにはそんな体験を通して豊かな想像力を育ててほしい」などと話した。また、自身の作品である「オオカミグーのはずかしいひみつ」などの読み聞かせでは、絵本画像をスクリーンに映しながら臨場感たっぷりの話しぶりで、母親と息子の親子の絆が強調されるラストシーンでは、泣きそうな表情を見せる子どもも多く見られた。講演会の終了後は、きむら氏の著作を持参した方を対象にサイン会も行われ、きむら氏は一人ひとりに言葉をかけながら対応し、参加者を喜ばせていた。

【講師紹介】

きむら ゆういち氏 (経歴・作品等)

昭和23(1948)年東京都生まれ。多摩美術大学卒業。絵本・童話作家。「あらしのよるに」(講談社)で講談社出版文化賞絵本賞、産経児童出版文化賞、JR賞受賞。同舞台脚本で斎田喬戯曲賞受賞。同作品は映画化もされ、脚本を担当。平成17年(2005)年12月より公開された東宝アニメーション映画「あらしのよるに」は、平成19(2007)年「日本アカデミー賞優秀アニメーション作品賞」を受賞。「オオカミのおうさま」(偕成社、絵・田島征三)で第15回日本絵本賞受賞。絵本・童話創作に加え、戯曲やコミックの原作・小説など広く活躍中。著書は500冊を超え、数々のロングセラーは国内外の子どもたちに読み継がれている。